

平成21年度普通会計決算の状況

平成21年度普通会計決算規模は、

歳入決算額 7,587億8,059万9千円

歳出決算額 7,380億6,753万7千円

で、前年度と比べると、歳入は約427億円の増（+6.0%）、歳出は約395億円の増（+5.7%）となっています。

歳入では、県税は、世界的な景気の低迷や国の税制改正により法人事業税の一部が国税に振り替わったことによる法人事業税の減や、エコカー減税導入による自動車取得税の減などにより、総額では約119億円の減（-9.2%）となっています。

国庫支出金は、昨年に引き続き国の景気対策（「経済危機対策」等）に伴う補正予算により措置された各種交付金（介護職員処遇、地域医療再生、医療施設耐震化などの基金原資、経済危機対策臨時交付金、公共投資臨時交付金、きめ細やかな臨時交付金）の増等により約467億円の増（+36.8%）となっています。

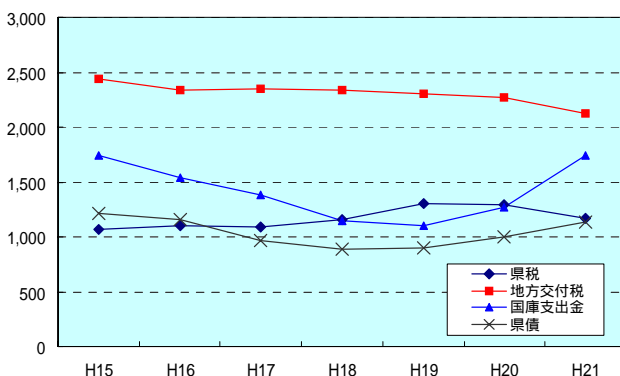
県の借金である県債は、あらかじめ予定していた借換債が減少したものの、借換債を除く実質的な県債については、交付税から振り替えられた臨時財政対策債の増（+102.0%）等により約141億円の増（+14.2%）となっています。

歳出では、性質別に見ると、人件費が職員数の減等により約43億円の減（-2.1%）となったものの、公債費が元利償還金の増等により約72億円の増（+7.9%）となり、扶助費を併せた義務的経費は前年度より約33億円の増（+1.0%）となっています。

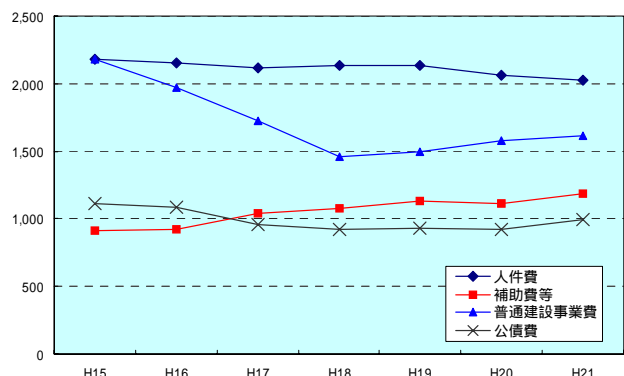
また、普通建設事業費が国の経済対策に伴い約74億円の増（+4.8%）となり、災害復旧事業費を併せた投資的経費は全体として約76億円の増（+5.0%）となっています。

その他の経費では、積立金が国の景気対策に伴う各種基金の創設や積み増しにより約288億円の増（+137.1%）等となっています。

億円 主な歳入決算額の推移



億円 主な歳出決算額の推移



普通会計決算状況累年比較

(単位：千円)

区分	年度	16	17	18	19	20	21
1 歳入総額 A		734,726,591	692,641,434	666,382,052	671,035,804	716,042,874	758,780,599
2 歳出総額 B		718,140,277	675,948,631	644,546,871	655,839,813	698,591,081	738,067,537
3 差引 (A - B) C		16,586,314	16,692,803	21,835,181	15,195,991	17,451,793	20,713,062
4 翌年度へ繰越すべき財源 (D ~ G) H		15,976,570	16,000,648	21,215,923	14,695,037	16,619,490	19,303,542
(1) 予算繰越額 D		12,045,695	13,155,209	18,004,847	11,576,650	13,267,938	16,255,778
(2) 事故繰越額 E		2,500			25,542	249,000	
(3) 事業繰越額 F		3,928,375	2,845,439	3,211,076	3,092,845	3,102,552	3,047,764
(4) 支払繰延額 G							
5 実質収支 (C - H)		609,744	692,155	619,258	500,954	832,303	1,409,520
6 単年度収支		295,783	82,411	72,897	118,304	331,349	577,217

〔目的別〕

歳出決算額累年比較 (普通会計)

(単位：百万円)

区分	年度		16		17		18		19		20		21	
	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成
1 議会費	1,406	0.2	1,358	0.2	1,371	0.2	1,273	0.2	1,323	0.2	1,247	0.2		
2 総務費	39,384	5.5	38,158	5.6	29,099	4.5	37,388	5.7	31,577	4.5	39,819	5.4		
3 民生費	67,203	0.0	70,916	10.5	73,599	11.4	74,523	11.4	79,965	11.5	100,095	13.5		
4 衛生費	25,916	3.6	25,359	3.8	24,576	3.8	23,123	3.5	25,221	3.6	34,552	4.7		
5 労働費	4,319	0.6	2,051	0.3	1,969	0.3	1,863	0.3	9,962	1.4	11,104	1.5		
6 農林水産業費	77,065	10.7	71,368	10.6	67,023	10.4	63,122	9.6	67,219	9.6	64,850	8.8		
7 商工費	39,808	5.5	35,768	5.3	36,127	5.6	40,393	6.2	76,265	10.9	70,394	9.5		
8 土木費	120,122	16.7	110,077	16.3	90,639	14.1	93,359	14.2	97,878	14.0	98,624	13.4		
9 警察費	43,550	6.1	42,819	6.3	43,593	6.8	44,582	6.8	42,625	6.1	43,253	5.9		
10 教育費	165,907	23.1	160,482	23.7	161,424	25.0	160,568	24.5	157,223	22.5	157,847	21.4		
11 災害復旧費	4,351	0.6	3,096	0.5	4,270	0.7	4,262	0.6	667	0.1	883	0.1		
12 公債費	108,827	15.2	95,620	14.1	92,185	14.3	93,071	14.2	91,969	13.2	99,195	13.4		
13 諸支出金	1,076	0.1	1,335	0.2	1,010	0.2	933	0.1	867	0.1	821	0.1		
14 その他	19,206	2.7	17,542	2.6	17,662	2.7	17,380	2.7	15,830	2.3	15,384	2.1		
合計	718,140	100.0	675,949	100.0	644,547	100.0	655,840	100.0	698,591	100.0	738,068	100.0		

歳出決算額累年比較（普通会計）〔性質別〕

（単位：百万円）

区分	15		16		17		18		19		20		21	
	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成
		%		%		%		%		%		%		%
1 人件費	217,725	29.0	215,343	30.0	211,810	31.3	213,466	33.1	213,174	32.5	206,550	29.6	202,263	27.4
2 物件費	19,816	2.6	19,668	2.7	17,222	2.5	16,118	2.5	15,640	2.4	15,363	2.2	17,518	2.4
3 維持補修費	4,147	0.6	4,210	0.6	4,207	0.6	4,425	0.7	4,427	0.7	4,775	0.7	6,070	0.8
4 扶助費	33,768	4.5	31,421	4.4	25,546	3.8	22,437	3.5	22,140	3.4	22,650	3.2	23,058	3.1
5 補助費等	90,838	12.1	91,887	12.8	103,571	15.3	107,527	16.7	112,925	17.2	111,479	16.0	118,877	16.1
6 普通建設事業費	218,040	29.1	196,847	27.4	172,401	25.5	145,650	22.6	149,480	22.8	153,753	22.0	161,185	21.9
(1) 補助事業費	135,332	18.0	116,961	16.3	107,843	16.0	88,646	13.8	87,265	13.3	90,839	13.0	94,131	12.8
(2) 単独事業費	68,203	9.1	65,656	9.1	50,156	7.4	44,474	6.9	48,720	7.4	44,824	6.4	52,329	7.1
(3) 国直轄事業 負担金	9,134	1.2	9,045	1.3	9,794	1.4	9,769	1.5	10,307	1.6	15,955	2.3	11,275	1.5
(4) 受託事業費	5,371	0.7	5,185	0.7	4,608	0.7	2,761	0.4	3,188	0.5	2,135	0.3	3,450	0.5
7 災害復旧事業費	3,730	0.5	4,351	0.6	3,096	0.5	4,270	0.7	4,262	0.6	667	0.1	883	0.1
(1) 補助事業費	3,625	0.5	4,177	0.6	2,996	0.4	4,040	0.6	4,247	0.6	661	0.1	870	0.1
(2) 単独事業費	105	0.0	168	0.0	92	0.0	230	0.0	15	0.0	6	0.0	13	0.0
(3) 国直轄事業 負担金			6	0.0	8	0.0								
(4) 受託事業費														
8 失業対策事業費														
(1) 補助事業費														
(2) 単独事業費														
9 公債費	111,660	14.9	108,794	15.1	95,588	14.1	92,156	14.3	93,021	14.2	91,911	13.2	99,130	13.4
10 積立金	8,809	1.2	4,638	0.6	9,416	1.4	7,013	1.1	6,341	1.0	21,027	3.0	49,863	6.8
11 投資及び出資金	645	0.1	549	0.1	252	0.0	160	0.0	97	0.0	136	0.0	50	0.0
12 貸付金	38,718	5.2	38,790	5.4	31,050	4.6	29,966	4.6	33,208	5.1	69,349	9.9	58,484	7.9
13 繰出金	2,347	0.3	1,642	0.2	1,790	0.3	1,359	0.2	1,125	0.2	931	0.1	687	0.1
合計	750,243	100.0	718,140	100.0	675,949	100.0	644,547	100.0	655,840	100.0	698,591	100.0	738,068	100.0

歳入決算額累年比較（普通会計）

（単位：百万円）

区分	16		17		18		19		20		21	
	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成	金額	構成
		%		%		%		%		%		%
1 地方税	109,869	15.0	109,425	15.8	115,664	17.4	130,191	19.4	129,108	18.0	117,252	15.5
2 地方譲与税	5,098	0.7	10,481	1.5	26,238	3.9	2,471	0.4	2,250	0.3	9,327	1.2
(1) 所得譲与税	2,538	0.4	8,000	1.2	23,826	3.6						
(2) 地方揮発油 譲与税											1,312	0.2
(3) 地方道路 譲与税	2,358	0.3	2,294	0.3	2,231	0.3	2,297	0.3	2,086	0.3	901	0.1
(4) 石油ガス 譲与税	179	0.0	169	0.0	166	0.0	159	0.0	147	0.0	140	0.0
(5) 航空機燃料 譲与税	23	0.0	18	0.0	15	0.0	15	0.0	17	0.0	19	0.0
(6) 地方法人 譲与税											6,956	0.9
3 地方特例交付金等	4,041	0.6	9,707	1.4	751	0.1	1,041	0.2	1,932	0.3	1,280	0.2
4 地方交付税	234,186	31.9	234,587	33.9	233,897	35.1	230,453	34.3	226,777	31.7	212,301	28.0
(1) 普通交付税	230,242	31.3	230,987	33.3	230,665	34.6	227,603	33.9	223,697	31.2	209,156	27.6
(2) 特別交付税	3,944	0.5	3,600	0.5	3,232	0.5	2,850	0.4	3,080	0.4	3,145	0.4
5 交通安全交付金	520	0.1	521	0.1	542	0.1	534	0.1	484	0.1	491	0.1
6 分・負担金	7,616	1.0	7,494	1.1	6,176	0.9	5,883	0.9	9,803	1.4	5,209	0.7
7 使用料	10,844	1.5	9,156	1.3	9,150	1.4	9,074	1.4	9,088	1.3	9,006	1.2
8 手数料	2,942	0.4	2,523	0.4	2,431	0.4	2,406	0.4	2,368	0.3	2,444	0.3
9 国庫支出金	153,945	21.0	137,910	19.9	114,529	17.2	110,637	16.5	127,071	17.7	173,795	22.9
10 財産収入	2,537	0.3	2,392	0.3	2,737	0.4	3,252	0.5	3,509	0.5	2,787	0.4
11 寄附金	21	0.0	19	0.0	22	0.0	6	0.0	31	0.0	25	0.0
12 繰入金	23,523	3.2	6,690	1.0	4,492	0.7	16,039	2.4	18,801	2.6	18,160	2.4
13 繰越金	15,189	2.1	16,586	2.4	16,693	2.5	21,835	3.3	15,196	2.1	17,452	2.3
14 諸収入	48,171	6.6	48,684	7.0	44,692	6.7	47,652	7.1	69,942	9.8	75,442	9.9
15 地方債	116,225	15.8	96,466	13.9	88,368	13.3	89,562	13.3	99,683	13.9	113,809	15.0
合計	734,727	100.0	692,641	100.0	666,382	100.0	671,036	100.0	716,043	100.0	758,780	100.0
自主財源 1, 6, 7, 8, 10 ~ 14	220,712	30.0	202,969	29.3	202,057	30.3	236,338	35.2	257,846	36.0	247,777	32.7
依存財源 2, 3, 4, 5, 9, 15	514,015	70.0	489,672	70.7	464,325	69.7	434,698	64.8	458,197	64.0	511,003	67.3

建設事業費累年比較（普通会計）

（単位：百万円、％）

年度 区分	16		17		18		19		20		21	
	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率
1 普通建設事業費	196,847	9.7	172,401	12.4	145,650	15.5	149,480	2.6	153,753	2.9	161,185	4.8
(1) 補助事業費	116,961	13.6	107,843	7.8	88,646	17.8	87,265	1.6	90,839	4.1	94,131	3.6
(2) 単独事業費	65,656	3.7	50,156	23.6	44,474	11.3	48,720	9.5	44,824	8.0	52,329	16.7
(3) 国直轄事業 負担金	9,045	1.0	9,794	8.3	9,769	0.3	10,307	5.5	15,955	54.8	11,275	29.3
(4) 受託事業費	5,185	3.5	4,608	11.1	2,761	40.1	3,188	15.5	2,135	33.0	3,450	61.6
2 災害復旧事業費	4,351	16.6	3,096	28.8	4,270	37.9	4,262	0.2	667	84.4	882	32.2
(1) 補助事業費	4,177	15.2	2,996	28.3	4,040	34.8	4,247	5.1	661	84.4	870	31.6
(2) 単独事業費	168	60.0	92	45.2	230	150.0	15	93.5	6	60.0	12	100.0
(3) 国直轄事業 負担金	6	皆増	8	33.3	皆減							
(4) 受託事業費												
3 失業対策事業費												
(1) 補助事業費												
(2) 単独事業費												
合 計	201,198	9.3	175,497	12.8	149,920	14.6	153,742	2.5	154,420	2.5	162,067	5.0

主要財政指標累年比較

(単位：%)

区分		年度	16	17	18	19	20	21
経常収支比率	長崎		96.9	95.5	96.3	98.9	98.3	97.2
	全国		92.4	92.8	93.6	96.7	95.3	95.2
自主財源比率	長崎		30.0	29.3	30.3	35.2	36.0	32.7
	全国		42.6	43.7	45.4	50.1	48.1	42.0
起債制限比率	長崎		13.2	11.6	10.1	8.6	8.6	9.8
	全国		12.6	12.4	12.3	11.8	11.6	12.0
実質公債費比率	長崎		-	12.5	10.9	10.2	10.1	11.4
	全国		-	14.9	14.7	13.5	12.8	13.0

経常収支比率

人件費・扶助費・公債費など、その性質上毎年度経常的に発生する経費に対して、県税や普通交付税などの経常的に収入される一般財源等がどの程度充てられたかをみる指標です。

この比率が低いほど、建設事業費などの臨時的経費に充当できる一般財源等に余裕があり、財政構造の弾力性に富んでいることになります。

自主財源比率

県税などの自力で確保できる収入（自主財源）が歳入総額に占める割合をいいます。

自主財源とは、県税、分担金及び負担金、使用料、手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入をいいます。

起債制限比率

公債費の負担のうち、地方交付税で措置されたものを除いた実質的な負担を示す指標です。

この比率が高いほど、公債費の負担が重くなり、財政構造の弾力性に乏しくなっていることを示します。

実質公債費比率

地方債制度が「許可制度」から「協議制度」に移行するに当たって設けられた比率で、従来の起債制限比率に含まれていなかった公営企業や一部事務組合の公債費に充てるための繰出金・負担金を含めた、県の実質的な公債費負担を示す指標です。

地方債の「協議制度」の下では、県は総務大臣に協議すれば、原則として自由に地方債を発行できますが、実質公債費比率が18%以上の団体については、引き続き地方債の発行に許可を要します。

また、実質公債費比率が25%以上の団体については、起債の制限を受けることになります。